

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成25年4月12日

【四半期会計期間】 第33期第2四半期(自平成24年12月1日至平成25年2月28日)

【会社名】 株式会社ビックカメラ

【英訳名】 BIC CAMERA INC.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 宮嶋 宏幸

【本店の所在の場所】 東京都豊島区高田三丁目23番23号
(上記は登記上の本店所在地であり、実際の業務は下記の場所で行っております。)

【電話番号】 -

【事務連絡者氏名】 -

【最寄りの連絡場所】 東京都豊島区東池袋一丁目10番1号

【電話番号】 03 - 3987 - 8785

【事務連絡者氏名】 取締役経営企画本部長 安部 徹

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第32期 第2四半期 連結累計期間	第33期 第2四半期 連結累計期間	第32期
会計期間		自 平成23年9月1日 至 平成24年2月29日	自 平成24年9月1日 至 平成25年2月28日	自 平成23年9月1日 至 平成24年8月31日
売上高	(百万円)	262,352	399,682	518,057
経常利益	(百万円)	4,723	4,020	6,178
四半期(当期)純利益又は四半期 純損失()	(百万円)	1,875	1,072	4,007
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	2,478	917	3,691
純資産額	(百万円)	73,001	87,979	88,124
総資産額	(百万円)	216,062	371,732	380,666
1株当たり四半期(当期)純利益 金額又は1株当たり四半期純損 失金額()	(円)	1,091.68	624.40	2,333.42
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)	-	-	-
自己資本比率	(%)	33.4	19.3	19.0
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	7,794	10,794	3,989
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	75	5,496	11,668
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	5,097	5,903	19,170
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(百万円)	17,342	36,426	46,813

回次		第32期 第2四半期 連結会計期間	第33期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成23年12月1日 至 平成24年2月29日	自 平成24年12月1日 至 平成25年2月28日
1株当たり四半期純利益金額又は 1株当たり四半期純損失金額 ()	(円)	577.19	167.66

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社の異動は、以下のとおりであります。

株式会社ボーダレスは、株式会社ラネットを存続会社とする吸収合併（合併期日：平成24年8月1日）により消滅しております。

当社の持分法適用関連会社であった株式会社ベスト電器は、平成24年12月13日に第三者割当による新株式を発行したため、当社の同社に対する議決権割合は15%未満に低下いたしました。これに伴い当社は、同社の経営に重要な影響を与えることができる状況にないと判断し、当第2四半期連結会計期間より、持分法適用の範囲から除外しております。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。
なお、当社と株式会社ベスト電器は、平成19年9月20日付で業務・資本提携契約を締結しておりましたが、事業環境の変化に伴い平成25年3月31日付で業務・資本提携契約を解除いたしました。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 経営成績の分析

当第2四半期連結累計期間（平成24年9月1日から平成25年2月28日まで）におけるわが国経済は、企業収益は大企業を中心に下げ止まりの兆しが見られ、個人消費も底堅いものの、欧州・中国等不確実な対外経済環境の中で世界景気の更なる下振れや金融資本市場の変動等の景気を下押しするリスクを含む状況で推移いたしました。

当家電小売業界におきましては、テレビ・ブルーレイディスクレコーダーが、政府のエコポイント制度及び地上デジタル放送への移行に伴う需要の反動減が継続したことにより著しく低調でした。この他、オーディオ・パソコン本体等は低調でしたが、スマートフォン等の移動体通信機器・LED照明機器・タブレットPC・デジタル一眼レフカメラ・冷蔵庫・エアコンは好調に推移いたしました。

こうした状況下にあって、当社は「より豊かな生活を提案する、進化し続けるこだわりの専門店の集合体」を目指して、接客力・専門性の強化、店舗オペレーション・物流の効率化等に取り組む一方、持続的な成長に向け、法人営業や、通信販売等の新しいチャネルの強化に努めてまいりました。

店舗展開につきましては、平成24年9月27日に「ビックロ ビックカメラ新宿東口店」を開店、平成24年11月1日には都市型アウトレット3号店「ビックカメラアウトレット 横浜ビブレ店」を開店しております。

業務提携につきましては、株式会社コジマとの間で商品仕入面での連携、物流・システム面での連携、店舗開発・店舗運営・販売促進の連携、什器・間接資材の共同購入、人材交流等を推進し、当社グループの強化に努めてまいりました。なお、平成24年6月に子会社となった株式会社コジマの業績につきましては、第1四半期連結会計期間より四半期連結損益計算書に含めております。

以上の結果、当社グループの状況は以下のとおりとなりました。

売上高・売上総利益

当第2四半期連結累計期間の売上高は3,996億82百万円（前年同期比52.3%増）、売上原価は3,027億5百万円（前年同期比52.6%増）となり、売上総利益は969億77百万円（前年同期比51.5%増）となりました。

販売費及び一般管理費・営業利益・経常利益・税金等調整前四半期純利益

当第2四半期連結累計期間の販売費及び一般管理費は、927億55百万円（前年同期比53.7%増）となり、その結果、営業利益は42億21百万円（前年同期比14.7%増）となりました。

営業外収益は21億70百万円（前年同期比21.3%増）、営業外費用は23億71百万円（前年同期比218.1%増）となり、経常利益は40億20百万円（前年同期比14.9%減）、株式会社ベスト電器を持分法適用の範囲から除外したことに伴い発生した投資有価証券評価損24億95百万円を特別損失に計上したことにより、税金等調整前四半期純利益は13億76百万円（前年同期比70.7%減）となりました。

法人税等合計・少数株主利益・四半期純利益・四半期包括利益

当第2四半期連結累計期間の法人税等合計は17億46百万円（前年同期比37.0%減）、少数株主利益は7億2百万円となりました。

以上の結果、四半期純損失は10億72百万円、四半期包括利益は9億17百万円となりました。

なお、セグメントの業績は、セグメント情報を記載していないため省略しております。

(2) 財政状態の分析

資産の部

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ89億33百万円減少（前連結会計年度末比2.3%減）し、3,717億32百万円となりました。主な要因は、現金及び預金の減少103億87百万円によるものであります。

負債の部

当第2四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末に比べ87億88百万円減少（前連結会計年度末比3.0%減）し、2,837億52百万円となりました。主な要因は、1年内返済予定の長期借入金の増加270億16百万円があったものの、買掛金の減少95億89百万円、短期借入金の減少157億20百万円、流動負債その他（前受金等）の減少32億16百万円、長期借入金の減少21億25百万円によるものであります。

純資産の部

当第2四半期連結会計期間末の純資産合計は、前連結会計年度末に比べ1億44百万円減少（前連結会計年度末比0.2%減）し、879億79百万円となりました。主な要因は、その他有価証券評価差額金の増加11億20百万円（純資産の増加）、少数株主持分の増加6億66百万円（純資産の増加）があったものの、剰余金の配当8億58百万円（純資産の減少）、四半期純損失10億72百万円（純資産の減少）によるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前連結会計年度末に比べ103億87百万円減少し、当第2四半期連結会計期間末には364億26百万円となりました。当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果使用した資金は107億94百万円（前年同期は77億94百万円の使用）となりました。これは主に、仕入債務の減少額95億89百万円によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は54億96百万円（前年同期は75百万円の獲得）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出51億72百万円によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果獲得した資金は59億3百万円（前年同期は50億97百万円の獲得）となりました。これは主に、短期借入金の純減少額157億20百万円があったものの、長期借入金の純増加額（収入と支出の差額）248億91百万円によるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	5,082,000
計	5,082,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成25年2月28日)	提出日現在 発行数(株) (平成25年4月12日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	1,723,526	1,723,526	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株制度を採用して いないため、単元株式数 はありません。
計	1,723,526	1,723,526		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成24年12月1日～ 平成25年2月28日	-	1,723,526	-	18,402	-	19,492

(6) 【大株主の状況】

平成25年2月28日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
新井 隆二	東京都練馬区	298,687	17.33
みずほ信託銀行株式会社有価証券 管理信託0700026	東京都中央区八重洲1-2-1	218,370	12.67
日本トラスティ・サービス信託銀 行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1-8-11	201,516	11.69
株式会社ラ・ホールディングス	東京都豊島区東池袋1-5-6	196,615	11.41
株式会社TBSテレビ	東京都港区赤坂5-3-6	61,190	3.55
野村信託銀行株式会社(信託口 2052116)	東京都千代田区大手町2-2-2	56,870	3.30
管理信託(A001)受託者 ソシエテ ジェネラル信託銀行株式会社	東京都港区赤坂1-12-32	51,646	3.00
富士ソフト株式会社	神奈川県横浜市中央区桜木町1-1	26,996	1.57
ビックカメラ従業員持株会	東京都豊島区東池袋1-10-1 住友池袋駅前 ビル5階	8,072	0.47
ビックカメラ取引先持株会	東京都豊島区東池袋1-10-1 住友池袋駅前 ビル5階	7,961	0.46
計	-	1,127,923	65.44

(注) 1. 上記の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は次のとおりであります。

みずほ信託銀行株式会社有価証券管理信託0700026	218,370株
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	201,516株
野村信託銀行株式会社(信託口2052116)	56,870株
管理信託(A001)受託者 ソシエテジェネラル信託銀行株式会社	51,646株

2. みずほ信託銀行株式会社有価証券管理信託0700026、野村信託銀行株式会社(信託口2052116)及び管理信託(A001)受託者 ソシエテジェネラル信託銀行株式会社の全所有株式数並びに日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)の所有株式数のうち193,034株(割合11.20%)については、新井隆二氏が委託した信託財産であり、議決権行使に関する指図者は同氏であります。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成25年2月28日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 5,966	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 1,717,560	1,717,560	-
単元未満株式	-	-	-
発行済株式総数	1,723,526	-	-
総株主の議決権	-	1,717,560	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」の株式数の欄には、証券保管振替機構名義の株式が10株含まれております。また、「議決権の数」の欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数10個が含まれております。

【自己株式等】

平成25年2月28日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数の 割合(%)
(自己保有株式) 株式会社ビックカメラ	東京都豊島区高田3-23-23	5,966	-	5,966	0.35
計	-	5,966	-	5,966	0.35

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

役職の異動

新役名及び職名	旧役名及び職名	氏名	異動年月日
取締役執行役員開発本部長	取締役執行役員開発本部長 兼開発室長	安藤 広司	平成25年1月1日
取締役副社長	取締役執行役員総務部長	川村 仁志	平成25年1月10日
取締役常務執行役員総務本部長兼総務部長	取締役常務執行役員総務本部長	湯本 善之	平成25年1月10日

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成24年12月1日から平成25年2月28日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成24年9月1日から平成25年2月28日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年8月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年2月28日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	47,137	36,749
受取手形及び売掛金	29,515	27,134
商品及び製品	86,963	85,786
原材料及び貯蔵品	422	427
番組勘定	66	59
その他	37,026	40,974
貸倒引当金	1,104	1,090
流動資産合計	200,027	190,040
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	30,478	29,605
土地	45,216	45,280
その他（純額）	3,779	6,195
有形固定資産合計	79,475	81,080
無形固定資産		
投資その他の資産	17,167	17,608
差入保証金	50,515	50,062
その他	33,861	33,429
貸倒引当金	392	488
投資その他の資産合計	83,985	83,003
固定資産合計	180,627	181,692
繰延資産	11	-
資産合計	380,666	371,732

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年8月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年2月28日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	50,317	40,727
短期借入金	86,740	71,020
1年内返済予定の長期借入金	15,382	42,399
1年内償還予定の社債	1,060	1,060
未払法人税等	575	875
賞与引当金	2,922	1,912
ポイント引当金	13,388	11,829
店舗閉鎖損失引当金	9,353	7,805
資産除去債務	654	895
その他	30,938	27,722
流動負債合計	211,334	206,248
固定負債		
社債	1,770	1,240
長期借入金	46,360	44,235
退職給付引当金	6,828	7,224
役員退職慰労引当金	132	114
店舗閉鎖損失引当金	7,116	7,057
その他の引当金	779	1,329
資産除去債務	7,766	7,632
その他	10,453	8,671
固定負債合計	81,207	77,504
負債合計	292,541	283,752
純資産の部		
株主資本		
資本金	18,402	18,402
資本剰余金	19,492	19,492
利益剰余金	35,400	33,469
自己株式	184	184
株主資本合計	73,110	71,179
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	678	441
その他の包括利益累計額合計	678	441
少数株主持分	15,692	16,359
純資産合計	88,124	87,979
負債純資産合計	380,666	371,732

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年9月1日 至平成24年2月29日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年9月1日 至平成25年2月28日)
売上高	262,352	399,682
売上原価	198,329	302,705
売上総利益	64,022	96,977
販売費及び一般管理費	1 60,343	1 92,755
営業利益	3,679	4,221
営業外収益		
受取利息	10	94
受取配当金	271	52
持分法による投資利益	25	-
受取賃貸料	457	456
受取手数料	463	502
協賛金収入	169	497
その他	389	566
営業外収益合計	1,789	2,170
営業外費用		
支払利息	364	984
持分法による投資損失	-	199
支払手数料	71	907
その他	308	279
営業外費用合計	745	2,371
経常利益	4,723	4,020
特別利益		
固定資産売却益	-	12
負ののれん発生益	-	6
投資有価証券売却益	-	11
特別利益合計	-	30
特別損失		
固定資産売却損	-	0
固定資産除却損	20	94
投資有価証券評価損	-	2 2,495
その他	-	84
特別損失合計	20	2,674
税金等調整前四半期純利益	4,702	1,376
法人税、住民税及び事業税	1,321	911
法人税等調整額	1,450	835
法人税等合計	2,771	1,746
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失()	1,930	369
少数株主利益	55	702
四半期純利益又は四半期純損失()	1,875	1,072

【四半期連結包括利益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年9月1日 至平成24年2月29日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年9月1日 至平成25年2月28日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	1,930	369
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	539	1,268
持分法適用会社に対する持分相当額	8	18
その他の包括利益合計	548	1,287
四半期包括利益	2,478	917
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,423	59
少数株主に係る四半期包括利益	55	857

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年9月1日 至平成24年2月29日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年9月1日 至平成25年2月28日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	4,702	1,376
減価償却費	1,572	2,531
のれん償却額	134	134
負ののれん発生益	-	6
貸倒引当金の増減額（は減少）	119	82
賞与引当金の増減額（は減少）	366	1,009
ポイント引当金の増減額（は減少）	1,358	1,559
退職給付引当金の増減額（は減少）	377	396
役員退職慰労引当金の増減額（は減少）	27	18
店舗閉鎖損失引当金の増減額（は減少）	-	759
その他の引当金の増減額（は減少）	79	549
受取利息及び受取配当金	282	147
支払利息	364	984
為替差損益（は益）	0	0
持分法による投資損益（は益）	25	199
固定資産売却損益（は益）	-	12
固定資産除却損	20	94
投資有価証券売却損益（は益）	-	11
投資有価証券評価損益（は益）	-	2,495
売上債権の増減額（は増加）	1,086	2,381
たな卸資産の増減額（は増加）	4,381	1,179
仕入債務の増減額（は減少）	5,341	9,589
その他	876	9,026
小計	2,450	9,734
利息及び配当金の受取額	288	78
利息の支払額	374	979
法人税等の支払額	5,257	159
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,794	10,794
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の払戻による収入	689	-
有形固定資産の取得による支出	619	5,172
有形固定資産の売却による収入	-	28
無形固定資産の取得による支出	376	1,073
投資有価証券の取得による支出	-	8
投資有価証券の売却による収入	-	22
差入保証金の差入による支出	111	1,897
差入保証金の回収による収入	426	2,739
連結子会社株式の取得による支出	-	23
その他	66	112
投資活動によるキャッシュ・フロー	75	5,496

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年9月1日 至平成24年2月29日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年9月1日 至平成25年2月28日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（は減少）	5,390	15,720
長期借入れによる収入	10,000	35,500
長期借入金の返済による支出	7,971	10,608
社債の発行による収入	147	-
社債の償還による支出	535	530
配当金の支払額	1,706	852
少数株主への配当金の支払額	-	172
自己株式の取得による支出	1	0
リース債務の返済による支出	226	1,711
財務活動によるキャッシュ・フロー	5,097	5,903
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	0
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	2,621	10,387
現金及び現金同等物の期首残高	19,964	46,813
現金及び現金同等物の四半期末残高	17,342	36,426

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

(連結の範囲の重要な変更)

株式会社ボーダレスは、株式会社ラネットを存続会社とする吸収合併（合併期日：平成24年8月1日）により消滅し、第1四半期連結会計期間より、連結の範囲から除外しております。

(持分法適用の範囲の重要な変更)

当社の持分法適用関連会社であった株式会社ベスト電器は、平成24年12月13日に第三者割当による新株を発行したため、当社の同社に対する議決権割合は15%未満に低下いたしました。これに伴い当社は、同社の経営に重要な影響を与えることができる状況にないと判断し、当第2四半期連結会計期間より、持分法適用の範囲から除外しております。

【会計方針の変更等】

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社及び一部の連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年9月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

この変更による当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

(株式会社コジマにおける物流センター使用料に関する会計方針の変更)

連結子会社である株式会社コジマにおける仕入先から受領する物流センター使用料については、従来、販売費及び一般管理費から控除しておりましたが、第1四半期連結会計期間より、売上原価から控除する方法に変更しております。

これは、株式会社コジマが当社の子会社となったことに伴い、当社グループ内で会計処理を統一するために行ったものであります。

なお、この変更による当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響はありません。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

該当事項はありません。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

記載すべき事項はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

1. 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年9月1日 至平成24年2月29日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年9月1日 至平成25年2月28日)
賞与引当金繰入額	1,804百万円	1,905百万円
退職給付費用	568百万円	690百万円
役員退職慰労引当金繰入額	1百万円	6百万円
減価償却費	1,368百万円	2,261百万円
のれん償却額	134百万円	134百万円
貸倒引当金繰入額	119百万円	87百万円

2. 投資有価証券評価損

当第2四半期連結会計期間より株式会社ベスト電器を持分法適用の範囲から除外したことに伴い、同社株式の保有目的による区分を関連会社株式からその他有価証券に、連結財務諸表を作成する際の評価基準及び評価方法を持分法から決算期末日の市場価額等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）に変更しております。

当該投資有価証券評価損は、同社株式の個別貸借対照表の帳簿価額を連結貸借対照表計上額として振り替えたことにより生じた差額を計上したものであります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年9月1日 至平成24年2月29日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年9月1日 至平成25年2月28日)
現金及び預金勘定	17,805百万円	36,749百万円
預入期間が3ヶ月を超える 定期預金	463百万円	323百万円
現金及び現金同等物	17,342百万円	36,426百万円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 平成23年9月1日 至 平成24年2月29日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年11月29日 定時株主総会	普通株式	1,717	1,000.00	平成23年8月31日	平成23年11月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年4月11日 取締役会	普通株式	858	500.00	平成24年2月29日	平成24年5月21日	利益剰余金

3. 株主資本の著しい変動

株主資本の金額は、前連結会計年度末日と比較して著しい変動がありません。

当第2四半期連結累計期間(自 平成24年9月1日 至 平成25年2月28日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年11月27日 定時株主総会	普通株式	858	500.00	平成24年8月31日	平成24年11月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年4月10日 取締役会	普通株式	858	500.00	平成25年2月28日	平成25年5月20日	利益剰余金

3. 株主資本の著しい変動

株主資本の金額は、前連結会計年度末日と比較して著しい変動がありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成23年9月1日至平成24年2月29日)及び当第2四半期連結累計期間(自平成24年9月1日至平成25年2月28日)

当社グループには、音響映像商品・家庭電化商品・情報通信機器商品等の物品販売事業以外の重要なセグメントがないため、セグメント情報の記載を省略しております。

(金融商品関係)

当第2四半期連結会計期間末(平成25年2月28日)

金融商品の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度末に比べて著しい変動がないため、記載を省略しております。

(有価証券関係)

当第2四半期連結会計期間末(平成25年2月28日)

当社グループが保有する有価証券は、企業集団の事業の運営において重要なものではありません。

(デリバティブ取引関係)

当第2四半期連結会計期間末(平成25年2月28日)

当社グループが行っておりますデリバティブ取引は、企業集団の事業の運営において重要なものではありません。

(企業結合等関係)

当第2四半期連結会計期間(自平成24年12月1日至平成25年2月28日)

重要な企業結合等がないため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、次のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年9月1日 至平成24年2月29日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年9月1日 至平成25年2月28日)
1株当たり四半期純利益金額又は1株 当たり四半期純損失金額()	1,091円68銭	624円40銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額又は四半期純損失 金額() (百万円)	1,875	1,072
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額又 は四半期純損失金額() (百万円)	1,875	1,072
普通株式の期中平均株式数 (株)	1,717,560	1,717,560

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

平成25年4月10日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

- (イ) 配当金の総額 858百万円
- (ロ) 1株当たりの金額 500円00銭
- (ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日 平成25年5月20日

(注) 平成25年2月28日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行います。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年4月11日

株式会社 ビックカメラ
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士 原 田 誠 司 印

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士 東 蒨 新 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ビックカメラの平成24年9月1日から平成25年8月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成24年12月1日から平成25年2月28日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成24年9月1日から平成25年2月28日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ビックカメラ及び連結子会社の平成25年2月28日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれておりません。